

24時サービス 営業強化

OS Sの看護・介護訪問先50軒目指す ステーションオレンジ

住宅型有料老人ホームなどを運営するOS S（本社安城市北山崎町、稲垣則康社長、電話0566・71・3401）は、「24時間看護・介護ステーション」事業の営業を強化する。同事業は、定期巡回と電話呼び出しに随時対応した訪問を行う介護看護連携型サービス。主にケアマネージャーらに対する営業活動に従事する専属スタッフを、8月に1人増員して2人体制とした。現在、安城市内で6軒の訪問先を、今月中に10軒に増やす方針。「2年以内をめどに50軒まで拡大する」（稲垣社長）計画を打ち出している。

（安城・山岡賢彦）



稲垣則康社長

「24時看護・介護ステーションオレンジ」は2015年4月に開設した。有料老人ホーム「オレンジ」（所在地同）内に拠点を置いている。

「24時看護・介護ステーションオレンジ」は2015年4月に開設した。有料老人ホーム「オレンジ」（所在地同）内に拠点を置いている。

いている。人員はホーム担当兼務も含め10人。同サービスは「屋根のない特養」（稲垣社長）と呼ばれる。現状では、同市内唯一の24時間対応の体制で展開しているため、ホームと同等のサービスを居宅で受けられるのが特徴となっている。



24時間看護・介護ステーションのスタッフ（右から2人目が尾崎責任者）

訪問先数は伸び悩んでいるが、これは看護介護連携型サービスに関して、要介護者とサービス事業者の橋渡し役を務める、ケアマネージャーへの浸透度が薄かったことが主な要因。同社では地道な周知活動の成果などから、「新しいサービスに対する認識も深まりつ

つあり、今が拡大の好機」（同ステーションの尾崎雅也計画作成責任者）と捉えている。

訪問先数が伸びなかったもう一つの要因として、同サービスが要介護者の状態好転に寄与し、要介護認定から外れるケースが生じていることが挙げられる。

「当社の定期巡回では、1日に3回から6回程度、お宅を訪問している。自宅へ頻繁に来訪者があることで、お客さんを迎える準備に体を使ったり心遣いをすることになり、これが自然な生活リハビリになっている」（同）という。

稲垣社長は「当社のサービスは、国が掲げる介護職者ゼロの目標にも趣旨が合致している。今後、伸びるサービスであり、また、伸ばさなければいけない」と話している。